

公益財団法人大倉精神文化研究所 令和4年度事業報告書

公益財団法人として11年目を迎えた令和4年度は、大倉精神文化研究所の創立90周年という「節目の年」に当り、「世の為に田を耕す」という創立者大倉邦彦の理念を踏まえて、①精神文化の研究及びその成果の普及、②地域における歴史・文化の研究及びその成果の普及、③附属図書館の運営及び図書資料の充実・整備の3つの柱からなる「令和4年度事業計画」を着実に推進し、文化の振興に寄与しました。

特に、創立者大倉邦彦の理念や当財団の歩みについての研究及びその成果の普及として、(1)石碑「大倉精神文化研究所」の案内板の設置、(2)「大倉邦彦旧蔵文庫」の目録のOPAC公開などを行うとともに、研究所及び附属図書館からの情報発信の充実として、(3)デジタルアーカイブ(貴重資料の画像閲覧サービス)の公開、(4)それに伴う財団ホームページの全面改訂などを実施いたしました。

なお、令和4年度も引き続き、新型インフルエンザ等対策特別措置法の趣旨等を踏まえ、事業の実施に際し、適切な措置を講じてまいりました。

1 精神文化の研究及びその成果の普及

(1) 実用の学の研究及びその成果の普及

研究所の活動は、精神文化についての学術的な一面とともに、その学問が現実社会の宗教・教育・政治・経済の実地にふれ、よりよき社会への進展に貢献するという一面も備えています。

実用の学の研究では、このような考えのもと、実業家の実学観や文化事業・教育事業等の調査・研究や資料収集を行っています。

研究所を創立した大倉邦彦は、紙問屋を経営する実業家でした。大倉は、自分は何のために生きているのか、何のために利益を上げるのか、得た利益をどのように使うべきかを真剣に考え、そのたどり着いた答えが教育事業や精神文化事業への取組でした。大倉は、これを天から与えられた自らの使命と考え、精神文化事業を通して、有為な人材を育成することによって、社会をより良いものにしたと考え、当財団を設立しました。

今日、海外企業をモデルに、企業のフィランソロピー(慈善活動、社会貢献活動)やメセナ(文化支援活動)などの必要性が叫ばれていますが、日本にも古くから神道、儒教、仏教等の教えから派生した社会貢献が行われており、江戸時代には石門心学に代表される町人道德も形成されていました。

そこで、令和4年度は、「世のために田を耕す—実業家の教育・福祉活動」をテーマに、教育・福祉活動に尽力した近代日本の実業家の功績と、その思想的背景について研究を進めました。その研究成果の一部は、次に掲げる大倉山講演会で公開するとともに、『大倉山論集』第69輯で特集を組みました(後掲、4頁「1(4)ア 研究紀要『大倉山論集』の編集・発行」参照)。

【大倉山講演会】

令和4年度は、大倉山講演会を以下の〈表-1〉に掲示した日程で、いずれも横浜市大倉山記念館

の指定管理者との共催事業として、横浜市大倉山記念館で開催しました。なお、新型コロナウイルス感染症対策として予約制とし、検温・消毒を行うなどの措置を講じました。

<表-1「大倉山講演会」>

■共催：横浜市大倉山記念館指定管理者 会場：横浜市大倉山記念館

回	開催日	演 題	講師	参加人数
第95回	4月16日 (ホール)	森村市左衛門と教育活動 －森村学園の創立と私学への支援事業－	松本 茂	40人
第96回	5月21日 (ホール)	鉄道王・教育者の五島慶太を通してみる「人と人生」	重永 睦夫	60人
第97回	6月18日 (ホール)	藤原銀次郎と福澤諭吉の「実学」 －應義塾大学理工学部誕生への道－	都倉 武之	60人
第98回	3月18日 (第1集会室)	世のために田を耕す －大倉邦彦の教育事業と理念－	星原 大輔	20人

(2) 東西文化融合の研究及びその成果の普及

日本の近代化と西洋文明の受容は、日本人の価値観や思想に大きな変化を及ぼしました。

創立者大倉邦彦は、国民の教育や人格形成において、日本の伝統文化を学ぶことが基本であると説き、当財団を設立しました。

その一方で、大倉邦彦は上海の東亜同文書院で学んだ経験や、実業家として世界を廻った体験から、東洋文明の枠組みに囚われることなく、西洋文明の学問成果の良いところも積極的に取り入れることを提唱しました。

そこで令和4年度は、近代化が日本人の信仰や心身の修養などに与えた影響に着目して研究を進めました。さらに、大倉邦彦の思想に影響を与えたインドの詩聖タゴールの思想や東亜同文書院の研究、国際的文化人として東洋と西洋で活躍した岡倉天心の研究も進めました。

【公開講演会】

研究成果の一環として、以下の<表-2>に掲示した公開講演会を、予約制、検温・消毒など、新型コロナウイルス感染症拡大の防止対策を講じて開催しました。なお、愛知大学との共催による公開講演会及び大倉山記念館指定管理者との共催による今昔建築サロンは中止となりました。

<表-2「公開講演会」(中止も含む)>

■共催：愛知大学 会場：横浜市大倉山記念館ホール

回	開催日	演 題	講師	参加人数
—	7月2日	—	—	新型コロナウイルス感染症拡大防止のため開催中止

■共催：岡倉天心市民研究会 会場：横浜市大倉山記念館ホール

回	開催日	演 題	講師	参加人数
第8回	11月26日	東京美術学校と岡倉天心	佐藤 道信	45人

■共催：大倉山記念館指定管理者 会場：横浜市大倉山記念館等

回	開催日	演 題	講師	参加人数
---	-----	-----	----	------

—	10月～11月	今昔建築サロン(建築編)	—	新型コロナウイルス感染拡大防止のため開催中止
—	2月	今昔建築サロン(自然編)	—	新型コロナウイルス感染拡大防止のため開催中止

(3) 創立者及び研究所関連資料の研究・調査とその成果の普及

精神文化についての科学研究及びその普及活動を行う上で、研究の基礎となる資料を収集・整理・保存することが欠かせません。それを実践することにより、研究及びその普及活動を効率的・効果的に進めていくことができます。

このような考え方に立って、創立者である大倉邦彦の思想や事績、研究所の創設から現代に至る沿革等の調査・研究、資料収集等を継続的に実施しています。

令和4年度は、経常的な資料整理作業に加えて、ホームページの改訂等によって、デジタル化した画像や音源、映像をより多く公開できるアーカイブ環境が整いましたので、所蔵資料のデジタル化作業を進めていきました。

ア「研究所沿革史資料」の調査・整理

研究所には、設立準備中から今日に及ぶ沿革に係る資料や、書簡や葉書が大量に存在し、これらを貴重コレクション「研究所沿革史資料」としてまとめています。その調査・整理を行い、登録作業を引き続き実施しました。(別紙、附属明細書1頁参照)

また附属図書館の書庫には、大倉邦彦旧蔵雑誌など、未整理の書籍や雑誌、書類が残置されています。これら未整理資料の調査・整理にも着手しました〔第一期3ヵ年計画の1年次目〕。

イ「研究所沿革史資料」のデジタル化

研究所沿革史資料の中には、様々な形態の資料が存在します。特に、写真類は、当財団の活動内容や地域の様子を知るうえで貴重な情報源となり、また外部機関よりの借用依頼等も多いことから、これらを中心にデジタル化を進めました。さらに、デジタルアーカイブの公開に向けた作業も実施しました。(後掲、5頁「1(4)ウ ①デジタルアーカイブの充実」参照)

ウ アナログ音源のデジタル化事業

当財団では、大倉邦彦を始めとする研究所関係者の肉声を記録したオープンリールテープや各種カセットテープ、SPLレコードなどを所蔵しています。しかし、テープ類は劣化が著しく、また再生機器も無くなりつつあるのが実情です。

令和4年度は、SPLレコード18枚をデジタル化しました。

エ「研究所沿革史資料」目録のOPAC公開

現在整理作業中の研究所沿革史資料は、整理・登録済みの目録件数が約130,000件となり、外部研究者からの問合せや閲覧利用が増えつつあります。

そこで、令和4年度の創立90周年に向けて、平成30年(2018)度より目録データを、図書館情報管理システム「情報館」のデータに変換し、OPAC(Online Public Access Catalog=オンラインで検索可能な蔵書目録)による目録公開を進めてきました。

令和4年度は、新たに11,875点の書誌データを公開しました(後掲、10頁「3(3)ア③ 貴重コレ

クシオン書誌データのOPAC公開」参照)。

オ 資料展の開催

資料調査や研究成果公開の一環として、以下の〈表-3〉に掲示した日程等で、研究所資料展を3回、特別資料展を2回、開催しました。

<表-3「資料展一覧」>

■主催

回及び開催場所	開催時期	テーマ	入場者数
第44回研究所資料展 (横浜市大倉山記念館回廊)	3月12日～実施中	大倉邦彦と大倉山記念館	展示会場がオープンスペースのため、入場者数はカウントできません。
第45回研究所資料展 (横浜市大倉山記念館ギャラリー)	8月9日～8月14日 (7日間)	大倉精神文化研究所と大倉山記念館 90年の歩み	88人
第46回研究所資料展 (横浜市大倉山記念館第6集会室)	11月3日～6日 (4日間)	大倉邦彦生誕140周年パネル展示と上映会	大倉山秋の芸術祭のため、入場者数はカウントできません。

■共催：横浜市港北図書館

回及び開催場所	開催時期	テーマ	入場者数
第19回特別資料展 (日吉の本だな)	1月19日～2月28日 (40日間)	第33代横綱・武蔵山展 日吉から大相撲の頂点へ	展示会場がオープンスペースのため、入場者数はカウントできません。

■共催：横浜市港北図書館 協力：港北図書館友の会

回及び開催場所	開催時期	テーマ	入場者数
第20回特別資料展 (横浜市港北図書館)	3月23日～4月20日 (24日間)	第33代横綱・武蔵山展 日吉から大相撲の頂点へ	展示会場がオープンスペースのため、入場者数はカウントできません。

カ 石碑「大倉精神文化研究所」説明板の設置

大倉邦彦の自筆で「大倉精神文化研究所」と刻まれた石碑は、かつて大倉山公園の入口階段の脇にありました。その後、研究所の敷地を横浜市に売却した後に研究所入口近くへ移設され、現在に至っています。

そこで令和4年度が創立90周年にあたることから、多くの市民に創立者大倉邦彦や研究所の歩みを知ってもらえるよう、4月に石碑の脇に説明板を設置しました。

(4) 印刷物の編集及び発行・電子情報の発信

当財団では、心豊かな国民生活の実現と文化の振興に役立つよう、精神文化及び地域における歴史・文化の研究成果を広く国民全体に公開普及する手段の1つとして、印刷物や電子情報を提供しています。

ア 研究紀要『大倉山論集』の編集・発行

3月に、『大倉山論集』第69輯(A5判 391頁 550部)を発行しました。

<表-4『大倉山論集』第69輯 目次>

特集 世のために田を耕す—実業家の教育・福祉活動—	
特集にあたって	公益財団法人大倉精神文化研究所

近代日本孤児院事業の軌跡と展開	峯岸 英雄
森村市左衛門と教育活動－森村学園の創立と私学への支援事業－	松本 茂
鉄道王・教育者の五島慶太を通してみる「人と人生」	重永 睦夫
論説	
田辺尚雄の「日本文化講義」－日本音楽の真髓を伝えるための巡講－	上久保 敏
覚書	
私立の公共図書館の現状と課題 －大倉精神文化研究所附属図書館を事例として－	小股 昭
資料紹介	
史料紹介 旧赤穂藩士の討ち入りとその処分を報せる書状	小林 輝久彦
史料翻刻 木下鞆村日記（十）－③	木下鞆村日記研究会
東急東横線の「沿線案内」－大倉精神文化研究所所蔵資料を中心に－	吉田 舞衣
受贈図書一覧	
所報	

イ 各種リーフレット等の編集・発行

当財団の活動目的や活動内容の周知を図り、研究成果の公開や普及活動の効果を高めるために、財団の事業案内や大倉山記念館の建物紹介、展示解説等、精神文化普及のための各種リーフレット等の広報用資料を編集・発行しました。

ウ 電子情報の発信

当財団のホームページやSNS(ツイッター)等を活用し、研究成果や講演会、展示会等の情報を積極的に発信しました。また、インターネットを通じた電子情報の公開は一般的になってきており、かつ利用者からの要望も高まりつつあります。

そこで、令和4年度は、特に以下に掲げる3つの事業を実施しました。

① デジタルアーカイブの充実

デジタル化した画像や音源、映像をより多く公開すべく、所蔵資料のうちデジタル化済のものは形式等を変更し、また未着手の資料はデジタル化を進め、順次公開を進めていきました。(前掲、3頁「1(3)イ 研究所沿革史資料のデジタル化」参照)

令和4年度は、大倉邦彦が創立した躬行会から刊行された月刊雑誌『躬行』全号を、誰でも閲覧できるように、PDF(Portable Document Format)で公開しました。

② 全面改訂した財団ホームページの公開・整備

デジタルアーカイブ公開を目的として、従来の財団ホームページ(以下、旧版HP)を全面改訂し、4月より新しい財団ホームページ(以下、改訂版HP)へ移行しました。それに伴って、旧版HPで公開していた電子情報の内容を、加除修正を施した上で改訂版HPへ移行するとともに、新しい電子情報も追加しました。

③ 『大倉山論集』のPDFによるネット公開

前年度に刊行した『大倉山論集』第68輯を、誰でも閲覧できるように、PDFで公開しました。

2 地域における歴史・文化の研究及びその成果の普及

(1) 他機関との連携事業

〈表－5〉に掲示した通り、港北区役所地域振興課、小机城のあるまちを愛する会、よこはま縁むすび講中実行委員会、横浜市大倉山記念館指定管理者等の8団体・機関と連携して、講演会の開催や資料の貸し出し等を行いました(前掲分は省略)。

〈表－5 「他団体・機関との連携事業」〉

時期	主催団体・機関名	連携事業
8月9日～14日	横浜市大倉山記念館指定管理者	「オープンギャラリー」を共催
9月3日	港北区役所地域振興課、港北区区民活動支援センター	『『港北地域学』特別講演会—建築家隈研吾氏 大倉山を語る』に協力
9月11日	横浜市大倉山記念館指定管理者	「大倉山記念館オープンデイ」を共催
10月23日	横浜市大倉山記念館指定管理者	「タゴールの歌と舞—ベンガル語の響きとインドの旋律—」を共催
10月30日	小机城のあるまちを愛する会、よこはま縁むすび講中実行委員会	「小机城ガイドツアー第1回」を共催
11月2日～6日	大倉山秋の芸術祭実行委員会	「第38回大倉山秋の芸術祭」を後援
11月3日	小机城のあるまちを愛する会、よこはま縁むすび講中実行委員会	「『小机の重政』上映と講演」を共催
11月23日	株式会社横浜アリーナ	「秋のヨコアリくんまつり 2022」に協力
11月26日	横浜市歴史博物館、港北区役所区民活動支援センター	令和4年度「港北地域学」講座第1回に協力
11月27日	小机城のあるまちを愛する会、よこはま縁むすび講中実行委員会	「小机城ガイドツアー第2回」を共催
11月28日	小机城のあるまちを愛する会、よこはま縁むすび講中実行委員会	「『小机の重政』上映会」に協力
12月4日	小机城のあるまちを愛する会、よこはま縁むすび講中実行委員会	「チャンバラ合戦-戦 IKUSA-小机城冬の陣2022」を共催
12月11日	小机城のあるまちを愛する会、よこはま縁むすび講中実行委員会	「小机城ガイドツアー第3回」を共催
1月16日	港北区役所地域振興課、港北区区民活動支援センター	令和4年度「港北地域学」講座第2回に協力
1月22日	小机城のあるまちを愛する会、よこはま縁むすび講中実行委員会	「小机城ガイドツアー第4回」を共催
2月6日	港北区役所地域振興課、港北区区民活動支援センター	令和4年度「港北地域学」講座第3回に協力
2月11日	横浜市大倉山記念館指定管理者	「大倉山記念館オープンデイ」に協力

2月26日	小机城のあるまちを愛する会、よこはま縁むすび講中実行委員会	「小机城ガイドツアー第5回」を共催
3月2日	港北区役所地域振興課、港北区区民活動支援センター	令和4年度「港北地域学」講座第4回に協力

(2) 講師派遣

〈表-6〉に掲示した通り、神奈川県ロータリークラブ等の22団体・機関からの依頼により、講演、授業、シンポジウム等に講師を派遣しました。

〈表-6 「他機関との連携一覧」〉

時期	団体・機関名	テーマ(派遣講師)
4月15日	神奈川県ロータリークラブ	港北の地名と鶴見川の水害(平井 誠二)
4月22日	横浜市師岡コミュニティハウス	鎌倉殿と港北区(平井 誠二)
5月15日	鶴見川流域水協議会	鶴見川流域の治水対策100年～総合治水から流域治水へ(平井 誠二)
6月11日	東洋大学井上円了記念センター	大倉精神文化研究所所蔵の東洋大学関係資料について—『東洋大学創立五十年史』編纂を中心に—(平井 誠二)
6月14日	横浜市立師岡小学校	大倉山記念館について(平井誠二)
7月16日	明治神宮国際神道文化研究所	シンポジウム「明治天皇の聖蹟を歩く—日本各地に遺される足跡—」(星原 大輔)
7月30日	佐賀県立佐賀城本丸歴史館	『江藤新平関係書翰』を読む(星原大輔)
9月3日	港北区役所地域振興課、区民活動支援センター	『港北地域学』特別講演会—建築家 隈研吾氏 大倉山を語る 第2部フリーディスカッション(平井 誠二)
9月10日	横浜市歴史博物館	知られざる港北の宝～横浜市港北公会堂の『どんちよう』を楽しむ(平井 誠二)
9月10日	熊本市文化財課植木分室	江藤新平の生涯と人物像(星原 大輔)
9月24日	横浜市民ギャラリーあざみ野	横浜北部のニュータウン開発と鉄道(平井 誠二)
9月24日	鶴見川舟運復活プロジェクト	鶴見川流域絵図と緞帳下絵のデザインを読み解く(平井 誠二)
9月29日	株式会社ブレインテック	専門図書館ユーザーの集い(星原 大輔)
10月8日	横浜市荏田地域ケアプラザ	第33代横綱・武蔵山の生涯(平井 誠二)
10月21日	横浜市高田地域ケアプラザ	高田地区まちあるき—新しい発見を求めて—(林 宏美)
12月7日	港北区地域子育て支援拠点どろっぴ	大倉山 今のイメージはいつから?(林 宏美)

12月7日	港北ボランティアガイドの会	2022年12月7日改訂 港北区内の歴史ガイド(平井 誠二)
1月14日	神埼情報館	大倉邦彦の生涯と理念～世の為に田を耕す～(星原 大輔)
1月21日	鶴見川舟運復活プロジェクト	港北区のお開帳(平井 誠二)
2月9日	蛇骨神社	蛇骨神社の「うけがたきことなり」というお話(平井 誠二)
2月10日	横浜市立新田小学校	6年生の疑問に答える(平井 誠二)
3月4日	地域防災施設鶴見川流域センター	芹沢銈介綴帳プロジェクトと語る鶴見川(平井 誠二)
3月18日	鶴見川舟運復活プロジェクト	『新編武蔵風土記稿』について(平井 誠二)

(3) 依頼原稿の執筆

ASA大倉山情報紙等の3団体・機関発行の情報紙や学術雑誌等へ22本の原稿を執筆し、掲載されました(別紙、附属明細書1～2頁参照)。

(4) 調査協力・記事掲載

- ① 4月2日、竹村様より大倉邦彦に関する資料の寄贈を受けました。
- ② 4月26日、近代映画協会へ放送使用資料として、大倉邦彦の肖像写真の画像データを提供しました。
- ③ 4月、YOUテレビの横浜ミストリー「鶴見川治水100年～総合治水から流域治水へ～」に出演し、放送されました。
- ④ 5月7日、7月30日、9月13日、12月7日、1月27日、寺田様より研究所及び地域に関する資料の寄贈を受けました。
- ⑤ 6月18日、宮本様より大倉邦彦及び研究所に関する資料の寄贈を受けました。
- ⑥ 同日、近藤様より大倉邦彦に関する資料の寄贈を受けました。
- ⑦ 7月5日、河原様より地域資料の寄贈を受けました。
- ⑧ 8月15日、BS11「偉人・素顔の履歴書」の撮影に協力し、10月1日に放送されました。
- ⑨ 11月2日、TVK「ハマナビ」に出演し、放送されました。
- ⑩ わがまち港北区映像プロジェクトの動画11作品の制作に協力しました。
- ⑪ 大倉精神文化研究所や大倉山記念館、港北区などに関する記事執筆の調査への協力や、当財団主催イベント紹介が、『新横浜新聞』等の15新聞・雑誌・ウェブで、36記事掲載されました(別紙、附属明細書2頁参照)。

(5) 見学案内

<表-7 見学案内>

開催日	団体名	参加人数
-----	-----	------

5月10日	横浜市立大曾根小学校3年生	30人
5月14日	東京佐賀県人会	10人
10月12日	横浜市立太尾小学校4年生	39人
2月1日	横浜市立太尾小学校3年生	8人
2月14日	個人	23人
3月2日	横浜市立西区東ヶ丘自治会、老人会	11人
3月30日	神奈川健康生きがいづくりアドバイザー協議会	25人

3 附属図書館の運営及び図書資料の充実・整備(定款第4条第1項第3号)

(1) 図書館の公開

当館は、哲学・宗教・歴史などの入門書から専門図書まで約11万冊を備えた精神文化の専門図書館です。毎週火曜日から土曜日まで週5日、午前9時30分から午後4時30分まで無料で公開しています。大倉山記念館や地域に根差した催事に合わせ6回の臨時開館も実施しました(別紙、附属明細書3頁参照)。

令和4年度は、コロナ禍の続く中、消毒・マスク着用・換気・透明パーティションの設置等の感染防止対策を徹底したうえで、通常通り開館しました。館内見学の受入も再開し、15回150人の見学者がありました(前掲、9頁「2(5)見学案内」と一部重複)。また、入館者数・閉架図書閲覧者数・閉架図書閲覧冊数などの数値が前年度より上回り、多くの来館利用がありました。(表-8「図書館利用の実績」参照)。

<表-8 図書館利用の実績>

	令和4年度	令和3年度	令和2年度
開館日数	248日	243日	205日
入館者数	5,111人	4,622人	2,926人
貸出カード登録者数(累計2,358人)	201人	236人	111人
図書貸出数	5,745冊	5,870冊	2,863冊
閉架図書閲覧者数	90人	71人	51人
閉架図書閲覧冊数	219冊	170冊	244冊
複写枚数	678枚	2,174枚	903枚
レファレンス件数	57件	25件	53件
蔵書検索アクセス数	1,494,802件	1,430,542件	4,224,401件
館内見学	15回/150人	受入中止	受入中止

(2) 資料の収集

当館では、精神文化に関する専門的図書資料、特に神道・儒教・仏教及び歴史の専門的資料に重

点を置いた収集を行うと共に、入門書・教養書等も幅広く収集・整備することを方針としています。

令和4年度は、新たに903冊(点)の図書を集集・整備し、OPACで公開しました(表-9「受入図書実績」参照)。うち52冊は、大倉邦彦没後50年(令和3年)を記念して開設した「やさしく読める心の本コーナー」(子ども向け精神文化図書コーナー)として配架しました。

<表-9「受入図書実績」>

	令和4年度			令和3年度		
	購入	寄贈	(小計)	購入	寄贈	(小計)
閉架図書	15	166	181	34	75	109
開架図書	543	175	718	650	242	892
(小計)	558	341	899	684	317	1,001
AV	0	4	4	0	0	0
(合計)	558	345	903	684	317	1,001

令和4年度末蔵書冊数:図書・AV資料総数:107,901冊・点
(閉架書庫83,639冊・開架図書24,037冊・AV資料225点)

(3) 専門図書館としての資料管理と機能の充実

ア 貴重コレクション書誌データのOPAC公開

当館の貴重コレクションは、23種約40,000冊に、研究所沿革史資料(約130,000点)を加えた24種類に及びます。これらの資料の大半は他館に書誌情報がないため、独自に書誌情報のデータ化を進めており、前年度までに、16コレクションのOPAC検索が可能となっています(部分公開のコレクションを含む)。

令和4年度は、次に掲げる3つの事業を実施し、大倉邦彦旧蔵文庫と沼田喜雨太郎寄贈書の2コレクションのOPAC検索が可能となりました。

① 「大倉邦彦旧蔵文庫」の書誌データOPAC公開と未整理資料のデータ整備

研究所創立90年を迎えた令和4年4月に、大倉邦彦旧蔵文庫(約3,000冊)の書誌データをOPAC公開しました。また、令和3年度から開始した、一般資料に分類されていた邦彦旧蔵資料や未整理資料の書誌データの整備を継続して進めました。(第2期5箇年計画の2年次目)

② 新規コレクションの書誌データ整備

沼田喜雨太郎寄贈書(172冊)のデータを登録し、OPACにて公開しました。

③ 「研究所沿革史資料」の書誌データのOPAC公開

研究所沿革史資料の書誌データ11,875点を、OPACにて公開し、総データ数は62,567件となりました。(前掲、3頁「1(3)エ「研究所沿革史資料」目録のOPAC公開」参照)。

イ 閉架書庫内資料の簡易データの詳細化

当館では、図書館情報管理システムの導入に際して、より多くの資料のOPAC検索を可能にすることを基本方針としたため、多くの資料は書名・著者名といった最小限の項目だけ入力した「簡易書誌データ」で運用を開始しました。導入後は、簡易書誌データに出版者・出版地・出版年・件名・キーワード等を追加する詳細化の作業を継続的に進めています。

令和4年度は、閉架書庫内に残る簡易書誌データのうち、2,642冊の詳細化を行いました(10箇年計画の6年次目)。

ウ 貴重コレクションの撮影

貴重コレクションは、資料保存の観点からコピーを禁止しており、その代替措置として、複写依頼のあった資料は司書によるデジタル撮影を行っています。

令和4年度は、大学・研究機関・研究者等からの複写依頼を受け、貴重コレクションの名古屋大周寺文庫『選択決疑鈔見聞』・『観経中台曼陀羅不審抄』・『円光大師伝』、大名榊原家文庫『善隣国宝記』、研究所沿革史資料『大倉先生発信控』7件178枚の撮影を行いました。

エ 資料の保全

近年の図書館・博物館等の資料保存庫は、防虫、防カビ対策として、湿度・温度を一定に維持するため、外気を遮断した構造を備えています。しかし、築年数の古い当館の書庫は、外気を遮断できる構造ではないため、書庫内換気のサーキュレーター稼働、防虫のための粘着マット使用、カビ除去作業等を年間通して行っています。

また、令和4年度は貴重資料の保全のため、下記の事業を実施しました。

① 資料保存箱設置事業

令和4年度も前年度に引き続き、個別の保存箱作成が難しい資料の棚全体を覆う中性紙の保存箱を設置し、貴重資料の保全を図りました。作業は専門業者へ委託し、書棚5連分33箱(約2,200冊分)を設置しました。(合計:11連73箱 約4,700冊分)

② 和装本の保存箱作成

ボランティアの協力を得て継続してきた和装本各冊の保存箱作成は、大名榊原家文庫178個(累計1,606個)の保存箱を作成しました。

(4) 利用者のニーズに応じた図書館サービスの提供

ア レファレンスサービスの充実

当館は、全国でも珍しい精神文化の専門図書館として、専門図書の公開に加えて、レファレンスサービスの向上が求められています。質問や相談内容によっては、研究員とも連携し、利用者のニーズに応えるレファレンスサービスの提供に努めました。また、他機関との情報交換、連携を深め、情報提供能力の向上を図りました。

令和4年度は、株式会社ブレインテックが主催するオンラインセミナー「専門図書館ユーザーの集い」において、『デジタルアーカイブ導入と図書館業務』と題し、研究員と司書の2人で事例発表を行いました。(前掲、7頁「2(2) 講師派遣」参照)

イ インターネットの活用

当館では、利用者の多様な要望に応えるため、蔵書検索、資料の予約・複写申込、貴重コレクションの閲覧・複写申込等、図書館サービスの提供にインターネットを活用しています。

令和4年度は財団ホームページの改訂に合わせて、利用者が必要とする図書館サービスへのアクセシビリティをさらに高めるため、ページ構成の見直しや情報の加除修正を行い、利便性の向上を

図りました。

(5) 利用促進のための広報活動

ア 附属図書館利用案内リーフレットの改訂

資料整理やOPAC公開の成果等最新の情報を反映した利用案内リーフレットの改訂版を発行し、利用者等へ配布しました。また、令和4年度は、創立90周年にあたることから記念のロゴを入れた特別仕様としました。

イ ホームページでの情報発信

改訂版HP上で新着本・おすすめ本の紹介を毎月2回掲載し、年間を通して資料展示・催し物の案内を随時更新して、情報発信を行いました。

また、大倉山駅から当館へのアクセス動画「大倉山さんぽ 記念館坂編」「大倉山さんぽ 梅見坂とオリーブ坂編」の2作品を制作し、YouTubeで公開しました。

ウ 所蔵資料の紹介展示

【図書館資料展—テーマ展示—】

令和4年度は、貴重コレクションを主な展示品とする「図書館資料展」を計5回開催しました(表-10「図書館資料展」参照)。このうち第33回は、タゴール月間記念展示、第34回、第35回の2回は、創立90周年記念展示として開催しました。

<表-10「図書館資料展」(第1閲覧室内展示ケース・入口展示ケースに展示)>

	タイトル	期 間	入場者数
第32回	鶴見川と大倉精神文化研究所—第5回鶴見川流域水循環系健全化貢献者表彰記念— (水害の歴史や防災に関する催しの実施等に対する感謝状)	2月15日～4月29日	902人 (4/1～)
第33回	大倉精神文化研究所の歴史を振り返る—研究所とタゴール記念会— (タゴール記念会を振り返る)	5月12日～7月30日	964人
第34回	大倉精神文化研究所の歴史を振り返る—大倉山に建設された白亜の殿堂— (90周年を記念し、記念館設立当時の写真を紹介)	8月4日～10月29日	910人
第35回	90周年記念展示 プラトンとアリストテレス (図書館設立に先駆けて購入した洋書2冊を紹介)	11月3日～1月31日	1,707人
第36回	資料保存を支える 箱作りボランティア (ボランティアの作品や作業の様子を紹介)	2月2日～4月30日	1,631人 (～3/31)

【図書館ミニ展示会—イベント関連展示等—】

当館では、図書館ミニ展示会として、当財団が開催する大倉山講演会その他のイベント(1～4頁「1 精神文化の研究およびその成果の普及」参照)の広報や、参加者が内容理解を深めることを目的に、閲覧室の小スペースを利用した関連図書の展示を行いました。図書館ミニ展示会は、身近なテーマの資料展示を含め、計11回開催しました(表-11「図書館ミニ展示会」参照)。展示した資料はどれも貸出可能としており、多くの利用がありました。

<表-11「図書館ミニ展示会」(第1閲覧室内に展示) ※印はイベント関連展示>

タイトル		期 間	入場者数
※第30回	森村市左衛門 (4月16日開催の大倉山講演会「森村市左衛門と教育活動」関連展示)	4月9日～5月7日	338人
※第31回	五島慶太と東急 (5月21日開催の大倉山講演会「鉄道王・教育者の五島慶太を通してみる『人と人生』」関連)	5月10日～6月4日	352人
※第32回	藤原銀次郎と福澤諭吉 (6月18日開催の大倉山講演会「藤原銀次郎と福澤諭吉の『実学』」関連)	6月7日～7月9日	381人
第33回	図書館で学ぶ豊かな心 心のふるさとー日本の祭り (昨今の不安定な状況が少しでも良くなるよう祈りをこめて、また各地の文化を知り楽しめるような図書を展示)	7月12日～8月13日	314人
第34回	図書館で学ぶ豊かな心 虫のふしぎ (身近にいる虫に関する資料展示)	8月16日～9月17日	380人
※第35回	図書館で学ぶ豊かな心 歳時記を読む (年中行事や俳句の季語などを展示)	9月21日～10月13日	208人
第36回	図書館で学ぶ豊かな心 手づくりの製本 (秋の芸術祭で図書館が開催するワークショップ関連展示)	10月14日～11月18日	670人
第37回	図書館で学ぶ豊かな心 港北の古城 小机城 (秋の芸術祭で研究所と「小机城のあるまちを愛する会」と共に上映会と講演会を開催、その関連本を展示)	11月19日～1月6日	491人
第38回	図書館で学ぶ豊かな心 ギリシャ哲学を読む (図書館資料展「90周年記念展示プラトンとアリストテレス」に合わせて読みやすい関連図書の展示)	1月7日～2月10日	363人
※第39回	大倉邦彦の教育活動と理念 (3月18日開催の大倉山講演会「世のために田を耕すー大倉邦彦の教育活動と理念ー」関連展示)	2月10日～3月18日	1,398人
※第40回	「親切第一」を掲げた企業家、星一 (4月15日開催の大倉山講演会『「親切第一」を掲げた企業家、星一』にあわせて、星一及び実業家の教育理念関連資料展示)	3月23日～4月28日	93人 (～3/31)

【タゴール月間記念展示】

インドの詩聖タゴールの誕生月と、昭和4年来日時の大倉邦彦邸宿泊が5月であったことから、当財団では毎年5月をタゴール月間として、関連資料の展示を行っています。

大倉邦彦はタゴール生誕百年(昭和36年)を祝う「タゴール記念会」の理事長に就任し、研究所本館の一室を「タゴール研究室」として提供しました。そこで、研究所沿革史資料をもとに、タゴール記念会の活動を紹介する展示を、5月12日から7月30日まで行いました。(表-10「図書館資料展」参照)

エ 大倉山秋の芸術祭

近隣の住民が集う大倉山秋の芸術祭では、「和綴じの本を作ってみよう」と題し、ワークショップを開催し、関連資料の展示も行いました(表-11「図書館ミニ展示会」参照)。ワークショップでは、司書3人が講師となり各自2種類の和綴じの本を作成しました。

開催期間中の祝日(11/3)と日曜日(11/6)は臨時開館も実施し、来館者へは創立90周年を記念して作成した大倉邦彦蔵書印・落款を散りばめたブックカバーを配布しました。

図書館の入口には除籍本等による「リユース文庫」を設置し、読書活動推進と新規利用者の獲得に向けたPRも行いました(別紙、附属明細書3頁参照)。

オ 図書館総合展

図書館総合展は、毎年全国の図書館や関連企業・団体が参加する図書館業界最大規模の催しで、令和4年度はオンラインとサテライト会場による開催となりました。

当館は、11月1日から30日までサテライト会場として参加し、自由見学者の受け入れを実施しました。また、遠方からの見学者も見込まれることから、大倉山駅から当館までのアクセス動画をYouTubeで公開しました(前掲、12頁「3(5)イ ホームページでの情報発信」参照)。

カ 取材協力・記事掲載

- ① 5月10日、神奈川県立歴史博物館へ特別展図録の掲載資料として、沿線案内等7点の画像データを提供しました。
- ② 8月10日、神奈川県立歴史博物館へ特別展の展示資料として、沿線案内等5点の現物資料を貸与しました。
- ③ 8月15日、BS11「偉人・素顔の履歴書」の撮影に協力し、当館所蔵の「遠山金四郎景元役宅日記」(金澤甚衛旧蔵資料)等が紹介されました。(前掲、8頁「2(4) 調査協力・記事掲載」参照)
- ④ 9月2日、(株)資料保存器材のWebサイト内の「今日の工房」で、同社の作業事例として当館の資料保存箱設置作業が紹介されました。
- ⑤ 11月1日～30日、図書館総合展運営委員会と専門図書館協議会の共催展示企画「あなたも使える専門図書館2022」に写真を提供しました。
- ⑥ 11月11日、図書館情報サイト「Jcross(ジェイクロス)」に秋の芸術祭で配布した「ブックカバー」が紹介されました。(前掲、13頁「3(5)エ 大倉山秋の芸術祭」参照)